

甲状腺超音波検査					S010
					担当部署
甲状腺エコー					生理
<b>検査オーダー</b>					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→生理→表在エコー→甲状腺エコー(中検技師)			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		<p>1)超音波の物理的要因 超音波の基礎理論は難解であり、日常検査を行ううえでかならずしもすべてを理解していなくても検査を行うことは可能である。しかし、虚像の発生など基本的な知識については知っておかないと判読を進めていくことが困難となる。</p> <p>2)解剖学的要因 超音波検査は多方向から断層像を得るため、立体的な解剖学の知識、正常変位、個人差による画像の変化、骨や消化管ガスによる障害などについて理解していないと、得られた画像を判読していくことが困難である。</p>			
検査受付時間		8 : 45～17 : 30			
<b>検体採取・搬送・保存</b>					
患者の事前準備事項		<p>1) 頸部の露出がしやすい服装で来院してもらう。</p> <p>2) ネックレス等首回りの装飾品ははずしてもらう。</p>			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	人体(甲状腺)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド可能			

検体受入不可基準	1) 体動が激しく安静を保つことができない患者 2) エコーが入りにくく甲状腺の描出が困難な患者 3) 検査に同意を得られない患者 4) 閉所恐怖症、暗所恐怖症の患者(ドアを開放しての測定や室内灯を点けて検査を実施出来る場合は実施する。) 5) 身体的な理由によりエコーゼリーの付着やプローブの接触が困難な患者(可能であれば他の位置から検査を施行する。)				
保管検体の保存期間	特記事項なし				
<b>検査結果・報告</b>					
検査室の所在地	病院棟 3階 中央検査部				
測定時間	半日(診察前:1時間)				
生物学的基準範囲	1) 正常甲状腺 (健常成人) ・大きさ(横径:1~2cm、縦径:4~5cm、厚み:1~2cm) ・重さ:20g(男性:18~20g、女性:15~18g) ・超音波像:①前頸筋群よりエコーレベルが高く、内部エコーは均質。②形状は峡部を中心になめらかな山形を呈する。③横断像にて両葉前面に前頸筋群が観察され、前頸筋群に圧迫されるように後方に凹の形状を呈する。 2) 正常副甲状腺 (健常成人) ・大きさ(横径:2~4mm、縦径:4~6mm、厚み:1mm程度) ・重さ:35~40mg ・形:扁平で卵円形ないし紡錘形 ・超音波像:サイズの平均が3×5×1mm、重量30~40mgと小さく、脂肪組織にとんでいるため、甲状腺や周囲組織との間に音響的インピーダンスの差がなく、超音波像として観察することができない。(腺腫や過形成などでは明瞭な被膜構造を有し、腺内の脂肪量が減少し均質な細胞成分が増加するといわれており、超音波像としてとらえることが可能となる。) 3) 正常リンパ節 ・大きさ 長径:数mm~1、2cm ・形:扁平な腎臓様 ・超音波像:縦横比小さく扁平、境界明瞭、内部はほぼ均質、皮質のエコーレベルは低く、リンパ門や髄質は高エコーであることが多い。(高エコー域が明らかでないこともある。)				
臨床判断値	該当なし				
基準値				単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因	該当なし	
臨床的意義	<p>甲状腺は内分泌臓器の中で視診・触診の可能な唯一の内分泌腺である。したがって、身体所見がその診断に重要な役割を果たしている。また、甲状腺機能や病態の評価は血中甲状腺ホルモンや抗甲状腺抗体の測定に負うところが大きい。しかし、大きさの評価は皮下組織厚や胸鎖乳突筋の発達程度、甲状腺の存在する相対的位置などにより、その視診・触診所見は大きく影響を受ける。さらに甲状腺は良悪性を問わず結節性病変の多い臓器であり、これらの点で超音波断層検査は重要な意味を持っている。</p> <p>また、甲状腺疾患における超音波検査は他の検査法に比べ、より低侵襲でより簡便でありながらその有用性は高く、高周波数・高分解能の超音波断層装置が普及したことによりその診断能が格段に向上し、カラードプラ法によりリアルタイムに血流の情報が得られるようになり、甲状腺の機能および腫瘍の血行動態を観察できるようになったこと、組織弾性イメージングの臨床的応用が大きく進展したことにより、甲状腺画像診断の第一選択となっている。</p> <p>[甲状腺超音波検査での評価]</p> <p>1) びまん性甲状腺疾患の評価 甲状腺の形態の把握、大きさの客観的評価、機能状態の推測、合併した結節性病変のスクリーニング</p> <p>2) 結節性病変の評価 良悪性の鑑別、嚢胞性病変の有無、充実性病変の有無、甲状腺内腫瘍・甲状腺外腫瘍の鑑別</p>	